

イスラエルの人々⑨

□イスラエルの人々の信仰の手本

モーセは、すべて主が彼に命じられたとおりに行い、そのようにした。第二年の第一の月、その月の一日に幕屋は設営された。(出 40：16～17)

□前回の振り返り・・・幕屋の製作（幕屋は組み立て・解体運搬可能、その各部品を製作）

1. 幕屋は、主がイスラエルの民のただ中におられて、いっしょに約束の地に上っていくために必要。
2. 幕屋を製作するための材料・・・心を動かされた人々が進んで自分で決めて、製作に必要な、いろいろなものを献げた。

心を動かされた者、霊に促しを受けた者はみな、会見の天幕の仕事のため、そのあらゆる奉仕のため、また聖なる装束のために、主への奉納物を持って来た。(出 35：21)

イスラエルの子らは男も女もみな、主がモーセを通して行うように命じられたすべての仕事のために、心から進んで献げたのであり、それを進んで献げるものとして主に持って来た。(出 35：29)

3. 幕屋を製作する奉仕者・・・聖霊に満たされてその仕事を進めることのできる人が主によってリーダーとして立てられた。その人とともに奉仕するサブリーダーも主によって立てられた。そして、主はこの二人に、他の人を教える力も与えられた。
4. 幕屋の製作・・・製作チームは、モーセがシナイ山の山上で主から命じられたとおりに、幕屋の各部品を製作した。

イスラエルの子らは、すべて主がモーセに命じられたとおりに、そのとおりに、すべての奉仕を行った。モーセがすべての仕事を見ると、彼らは、見よ、主が命じられたとおりに行っていた。そこでモーセは彼らを祝福した。(出 39：42～43)

□今回は、出来上がった各部品を、はじめて組み立てて幕屋を設営するという出来事。
シナイ山のふもとにて。

□イスラエルの人々の信仰⑨ 幕屋の設営

1. 主の命令（出40：1～8）と幕屋の設営（出40：16～33）

	主の命令（出40：1～8）	幕屋の設営（出40：16～33）
①	1節 主はモーセに告げられた。	16節 モーセは、すべて主が彼に命じられたとおりに行い、そのようにした。
②	2節 第一の月の一日に、あなたは会見の天幕である幕屋を設営しなければならない。	17～19節 第二年の第一の月、その月の一日に幕屋は設営された。モーセは幕屋を設営した。まず、その台座を据え、その板を立て、その横木を通し、その柱を立て、幕屋の上に天幕を広げ、その上に天幕の覆いを掛けた。主がモーセに命じたとおりでである。
③	3節 あなたはその中にあかしの箱を置き、垂れ幕で箱の前をさえぎる。	20～21節 また、さとの板を取って箱に納め、棒を箱に付け、「宥めの蓋」を箱の上に置き、箱を幕屋の中に入れ、仕切りの垂れ幕を掛け、あかしの箱の前をさえぎった。主がモーセに命じられたとおりでである。
④	4節 a 机を運び入れて備品を並べ、	22～23節 また、会見の天幕の中に、すなわち、幕屋の内部の北側、垂れ幕の外側に机を置いた。その上にパンを一行にして、主の前に並べた。主がモーセに命じられたとおりでである。
⑤	4節 b 燭台を運び入れて、そのともしび皿を載せる。	24～25節 会見の天幕の中、机の反対側、幕屋の内部の南側に燭台を置き、主の前にともしび皿を掲げた。主がモーセに命じられたとおりでである。
⑥	5節 a 香のための金の祭壇をあかしの箱の前に置き、	26～27節 それから、会見の天幕の中の垂れ幕の前に、金の祭壇を置き、その上で香り高い香をたいた。主がモーセに命じられたとおりでである。

⑦	5節 b～6節 垂れ幕を幕屋の入り口に掛ける。会見の天幕である幕屋の入り口の前には、全焼のささげ物の祭壇を据え、	28～29節 また、幕屋の入り口に垂れ幕を掛け、会見の天幕である幕屋の入り口に全焼のささげ物の祭壇を置き、その上に全焼のささげ物と穀物のささげ物を献げた。主がモーセに命じられたとおりである。
⑧	7節 会見の天幕と祭壇の間に洗盤を据えて、これに水を入れる。	30～32節 また、会見の天幕と祭壇との間に洗盤を置き、洗いのために、それに水を入れた。モーセとアロンとその子らは、それで手と足を洗った。会見の天幕に入るとき、また祭壇に近づくとき、彼らはいつも洗った。主がモーセに命じられたとおりである。
⑨	8節 周りに庭を設け、庭の門に垂れ幕を掛ける。	33節 また、幕屋と祭壇の周りに庭を設け、庭の門に垂れ幕を掛けた。こうしてモーセはその仕事を終えた。

2. 主の栄光が幕屋に満ちた（出40：34～35）

34～35節 そのとき、雲が会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたからである。

3. これからの旅について、振り返って総括的に記す（出40：36～38）

36～38節 イスラエルの子らは、旅路にある間、いつも雲が幕屋から上ったときに旅立った。雲が上らないと、上る日まで旅立たなかった。旅路にある間、イスラエルの全家の前には、昼は主の雲が幕屋の上に、夜は雲の中に火があった。

□エジプトを出てから二年目、第一の月（4月）の一日に、イスラエルの民は、主が命じたとおりに、幕屋を設営した。イスラエルの民は、この日初めて、設営された幕屋とその入り口の前に置かれた祭壇と洗盤を見た。主はモーセを幕屋に呼び、祭壇でささげるささげ物についての定めを告げ、イスラエルの民にこれを命じた（レビ記1章～7章）
 今回は、レビ記8章～10章、主に油注がれてその職務に任命された祭司が、主が命じたものでないものを主の前にささげたら、どうなったか、を学ぶ。